「相中相高百年史」より
（ 戦時体制下の相馬中学校 ４）

４　グライダー滑空練習

1938（昭 13）年、中学校のグライダー滑空練習に関して文部次官通牒が発せられた。

1940（昭 15）年、学校長が馬城会に対して、グライダー一機（約 1,300 円）の寄贈を申し込み、馬城会総集会においてそれを承認し基金の中から 1943（昭 18）年支出する。(『馬城会記録』)

……

グライダーの練習は、現川原町グランドと二ノ丸において行われた。17 年度には、滑空部もでき練習に励むことになる。この様子を『校報』40 号には

> 我が国に於ても各大学専門学校は勿論近時中等学校修練隊の一部として又明 18 年度からは正科としてまでも国家が重要視して来たのである。
>
> 本校に於ても昨年の初滑空機研究室が設置され相田先生の御懇篤な御指導の下にスケールモデル プライマリ セコンダリーの模型機が作成され、航空日には相中第一回の滑空大会が二ノ丸の台上で行われ一段と航空熱が盛んとなり、今年に入り材料其の他の関係から一時中止の已むを得ざるに至り、二回の滑空大会を迎えた当日は雨で日取りを変更して後日に行ったが強風の為好記録も出ず残念に終わった。
>
> 心残りの航空日を後にした二週間目十月上旬突如として某氏の寄贈せる文部省一型グライダーが一台到着、明春二月中一号機、二号機の命名式が行われ、修練隊の花形として本格的滑空部が新設される様になった。
>
> 四年生以下の諸君に告げる。若い生徒は空に伸びよ、空を征する者は世界を征するのだ。生きがひのあるピリッとした寸分の隙もない精神的肉体的の運動こそここから生まれここに終わるのだ。

とあり、中等学校修練隊の一部として華々しく登場し期待も大きく、正課体操の授業に組みこまれるのである。が、期待に反してそれほど発展はしなかったようである。

（戦況が悪くなってきたからであろう）

（２月 23 日　選択転記・文責　村山）